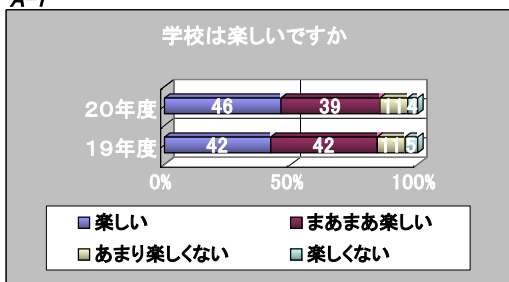


平成20年度 学校経営計画についての中間評価と課題（アンケートより）

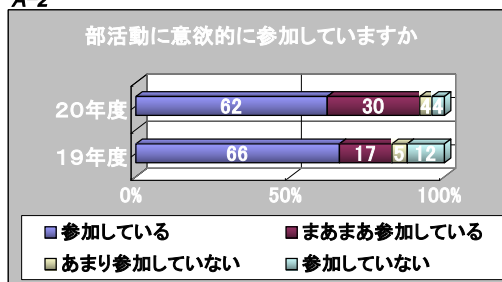
平成20年9月
学校評価委員会

【全体として～生徒の意識～】

A-1



A-2



(分析)

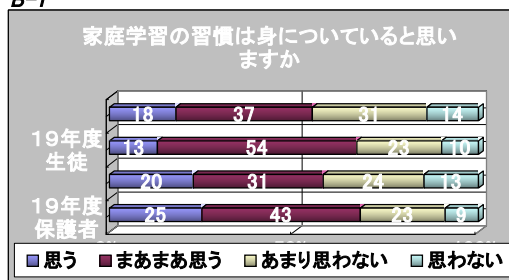
◇「学校が楽しいですか」という問に対して、昨年度と全体としての割合は変化していないが、「楽しい」と回答した生徒の割合が4ポイント増加していることは、良い傾向だと思う。課題は、昨年度と同様に15名近くの生徒が「楽しくない」と答えている状況をしっかり受け止めなくてはならない。不登校や休みがちな生徒への関わりや聞き取り等の工夫も必要である。
◇部活動参加意欲のグラフに表れているように、「意欲的に取り組んでいる」割合が9ポイント増加している。生徒の学校生活における部活動の占める意識が高いことを裏付けている。ただ、学習面での楽しさが増えてくると、学校生活全体の「楽しい」割合が90%を超えることも期待できる。

(手だて)

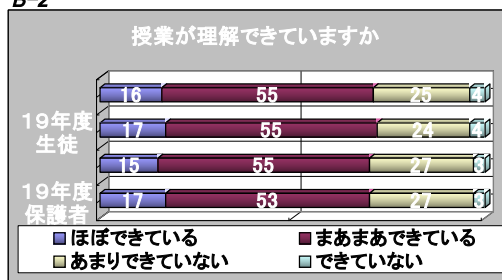
1. 学年会で不登校生徒・不登校気味の生徒の情報交流を確実に実施する。
2. 生徒へのアンケートや生活実態等の調査を必要に応じて実施する。

【領域1 学力の向上について】

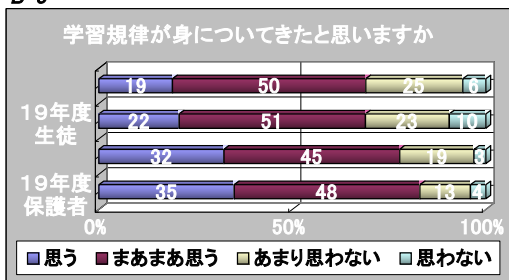
B-1



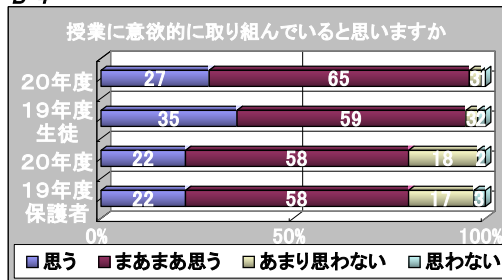
B-2



B-3



B-4



(分析)

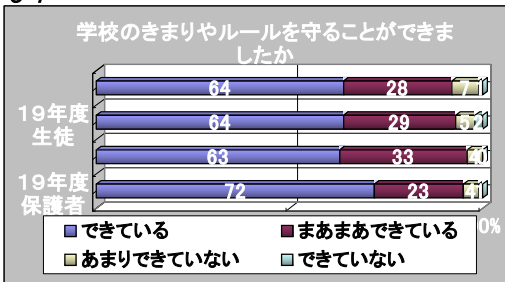
◇B-2の項目については、昨年度と全体としては、ほぼ変化がない。B-4については、生徒(子ども)と保護者の評価が少し違ってきている。我が子ではあるが、子ども自身より比較的厳しく評価している傾向がある。これは、期待度が高いことの表れでもあると考える。
◇家庭学習の習慣という点では、今年度はかなり割合が下がっている。この原因については、各教科や教務部での分析を通して学校として何らかの取り組みをすることが必要である。

(手だて)

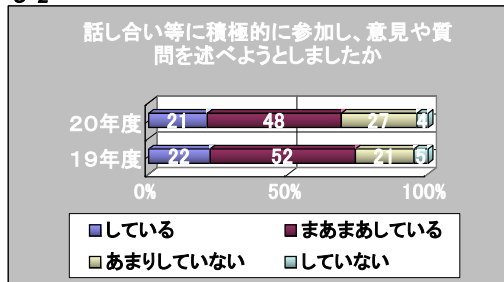
1. 宿題については、教科会等で検討し、また教科間で連絡を取り合いながら出題していく。
2. 生活ノートを活用する中で、家庭学習の状況を把握し指導につなげていく。

【領域2 豊かな人間性の育成について】

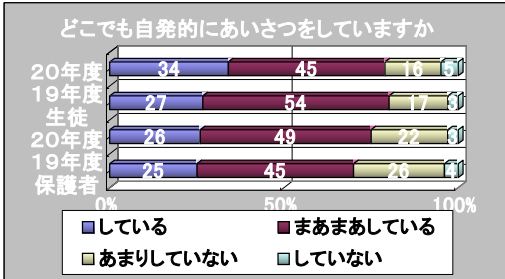
C-1



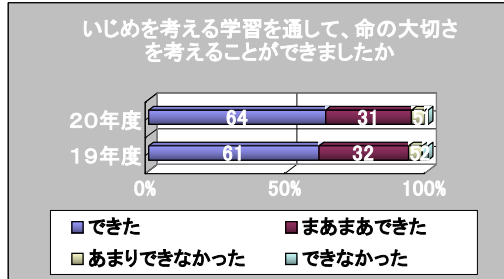
C-2



C-3



C-4



(分析)

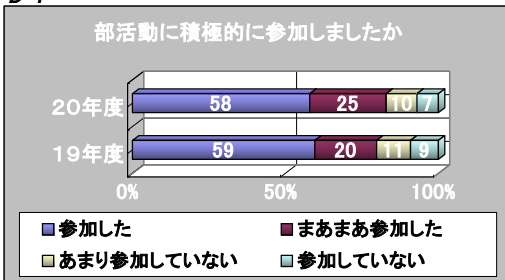
◇C-1については、昨年度との比較では生徒の意識は変化はないが、保護者の方においては、今年度はきまりやルールが少し乱れ始めている感じが、生徒を通して伝わっているように思う。「あいさつ」の項目では、70～80%の生徒はあいさつをしているようであるが、なかなか自発的に自分の方からという状況は少ない。こちらから、あいさつをするとその返答が返ってくるというのが実情である。
 ◇C-2は、ことばを使ってのコミュニケーション能力の育成と物事に対する積極性を表しているが、生徒たちの不得意な分野と言えるであろう。ことばを通して相手の思いや気持ちをくみ取るとか、すぐ感情的にならずにまず頭で考える等の力が十分に育っていないと考える。また、いじめ等が良くないことは頭では分かっているが、実感としてからだ全体で感じ取っていない思いが強くなる。C-4で、「命の大切さを考えることができた」と回答した生徒は95%にもなるが、普段の学校生活や友達関係の中で、その意識が十分に働き、いじめや暴力の否定、自他を大切にす具体的な言動等を育てていく取り組みをさらに強化していく必要がある。

(手だて)

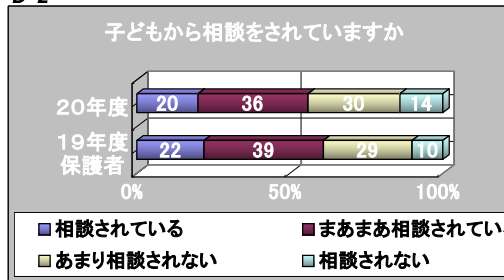
1. 日常的な学校生活の中で、だらしない面やルーズになっている面について確認し指導する。
2. 生徒へ生活の課題を提示し、生徒自らが考え解決していく筋道を示していく。
3. 総合的な学習の時間や道徳の指導案の中に、話し合いの場を積極的に設定していく。

【領域3 心身の健康の維持・増進について】

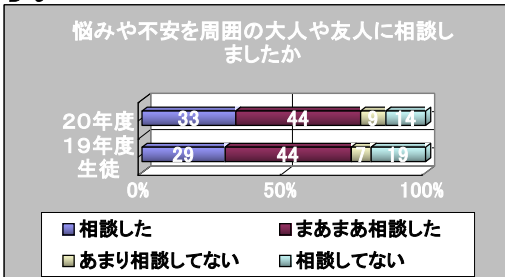
D-1



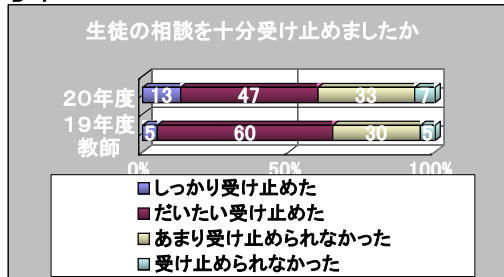
D-2



D-3



D-4



(分析)

◇学校生活の中で何かに集中し取り組むことがあるということは、とても良いことだと考える。子どもたちの成長の中でこころとからだのバランス良く発達することが望まれる。また、ストレス社会(学校においても同様)においてストレスとどのようにつきあっていき解消するのが大きな課題になってくる。

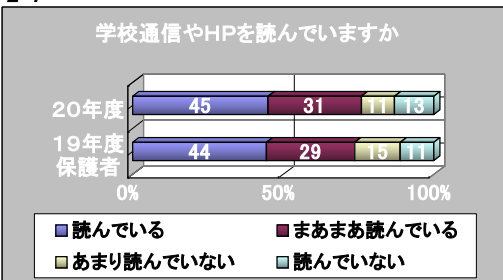
◇D-3では、悩みや不安を身近な大人へ相談しているかどうかを表している。生徒は70～80%が「大体相談した」と回答している。しかし、残りの20～30%は相談していない実態もある。生徒たちだけで解決できる部分だけではなく、大人が介入しなくては解決が難しい問題もあると考える。今回は、選択肢の中に「誰に」という設問がありませんので分からないところが多いですが、想像するに「保護者や教師」に相談する割合はそんなに高くないと思われる。生徒たちと大人との信頼関係が重要であるが、「相談してもどうせ・・・」とか「大人が入るとややこしくなる・・・」と言ってなかなか相談に来る生徒は少ないのが現実である。生徒たちからのアプローチを待つだけでなく、大人の側から積極的に生徒たちの変化をつかみ働きかける動きとこころのゆとりがこれから大いに必要になってくる。そのために、毎日の生活記録ノートや教育相談日の設定等、日々のアプローチを大切にしていくことが大切である。

(手だて)

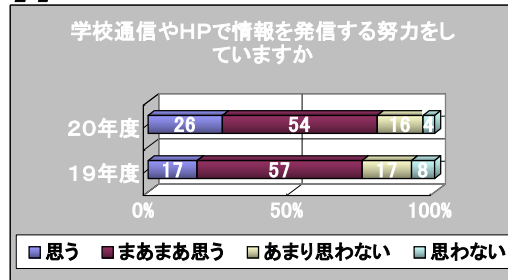
1. ソーシャルスキルトレーニング等(コミュニケーションスキル、アサーションスキル等)の研修を進める準備をする。
2. 教育相談日に行事等を極力持たず、時間確保を行う。回数も増やし一人に対する時間確保を行う。

領域4 まちぐるみによる教育の推進

E-1



E-2



(分析)

◇昨年度に引き続き、学校通信の月1回の発行とホームページでの発信を中心に地域や保護者へ情報を伝える努力をしている。少し今までの様式を変化させ、さらに工夫をしながら「見てみよう」「読んでみよう」と思える情報発信へ取り組んでいく必要がある。

(手だて)

1. ホームページの体裁をリニューアルさせる。
2. 学校の様子を写真等を活用し、紹介する。更新をできる限り行う。